

「石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業」の中間評価における 調査検討事項及び評価内容等(事務局案)

平成29年10月25日
評価専門調査会

【調査検討事項及び評価内容】

1. 評価対象案件の実施府省における評価方法及び中間評価結果の妥当性

- ① 「国の研究開発評価に関する大綱的指針（平成28年12月21日）」の評価方針に照らして評価方法が妥当であるかどうか。
- ② 実施府省における中間評価結果は妥当であるかどうか。

2. 関連する上位の政策・施策等の目標を達成するための道筋を踏まえた中間評価時での成果と目標の達成状況

- ① 第1回目の中間評価（平成27年）以降の情勢変化や海外の事例に対応するために目標の変更の必要性。
- ② I G C Cにおけるガスタービンの更なる高温化や酸素コストの縮減などによる発電効率のアップと発電コストの削減に向けた取り組み状況。(前回指摘事項)
- ③ 酸素吹ガス化技術のもつ優れた特長を活かせる用途を開拓及び空気吹 I G C Cとの役割分担を含めた展開戦略が明確となっているか。(前回指摘事項)

3. 中間評価以降の成果予定と目標の達成見込み

- ① 第3段階（I G F C）の技術課題に対して、詳細な計画と概念設計は妥当であるか。(前回指摘事項)
- ② 計画を阻害するリスク要因と対策は検討されているか。(前回指摘事項)
- ③ 研究開発加速のため、燃料電池メーカーとの連携体制はとれているか。中間評価以降の成果予定と目標の達成見込み。(前回指摘事項)
- ④ これまでの成果を踏まえ、実用化までのスケジュールは適当なものとなっているか。

4. 今後の波及効果の見込み

- ① 第3段階（I G F C）の成果において、科学技術・社会的経済的などのよ

うな寄与が期待されるか。

- ② 主要な国や機関とのネットワークを生かした政策対話や国際開発金融機関などとの連携による徹底的な案件の発掘と支援のパッケージ化の促進などの対応は十分か。(前回指摘事項)
- ③ 酸素吹 I G C C と C C S を組合せたパッケージとしての石炭ガス化複合発電技術による C O 2 回収量に対応できる C C S について、海外競争力の観点からコスト削減が取り組まれているか。(前回指摘事項)
- ④ 海外パートナーシップの構築や第三国による技術盗用の防衛策の検討など、具体的な知的戦略の立案が具体的に計画されているか。(前回指摘事項)
- ⑤ 海外での事業採算性については、イニシャルとランニング双方のコストターゲットとその実力値が示されているか。(前回指摘事項)

5. 研究開発マネジメントの妥当性

(1) 技術の進展や社会情勢の変化を踏まえた PDCA プロセス

研究開発の進捗や社会の情勢にあわせて、計画の評価・見直しを行っているか (PDCA の運用実態)。

(2) 関連する政策・施策等へのフィードバック

- ① 第 1 段階及び第 2 段階並びに第 3 段階の実施計画や技術的課題について、外部有識者による評価は行われていたか。
- ② 石炭ガス化複合発電の海外展開やエネルギー政策について、経済産業省の政策面のフィードバックとしての評価が行われているか。

【実施スケジュール(予定)】

平成 29 年 10 月 25 日	第 123 回評価専門調査会 ・ 中間評価に係る調査・検討 (関係府省庁等からの説明、評価委員会座長等からのヒアリングを含む)
平成 29 年 11 月 16 日	第 124 回評価専門調査会 ・ 評価結果案のとりまとめ
平成 29 年 12 月	総合科学技術・イノベーション会議 ・ 評価結果案の審議・決定